

8時に震度6の地震が発生したとの想定で、学区の防災訓練が行われました。安否確認の訓練のほか、体育館では災害時の課題についてグループ討議を行いました。

南区は名古屋市で4番目に外国人住民が多い区で、明治学区にもたくさんの方がお住まいです。今回は、外国人の方が避難してくる想定で、日本語しゃべろう会の方々の防災訓練も同時に開催し、多様性の時代の防災について真剣に考える機会にもなりました。



▲学区連絡協議会役員の方々に加え、外国人、高齢者、障がいのある方など、多様な住民が集いました。

安否確認訓練



▲災害が発生した際には、安否確認カードをドアに掛ける取決めになっています。両面ラミネートカードは、学区の手づくりです。この日は約50%の世帯で安否確認の表示がされました。

グループ討議



▲避難所では、22ある町内会を4つの班にわけて運営することになっています。この日の訓練では、災害時の課題について班ごとに意見交換をしました。どの班の話し合いでも、安否確認の大事さが確認されました。

外国人住民の参加



▲「実際の避難所でも、日本語が分からない方が避難してくることを、想定しておいてほしい」と学区から呼びかけがありました。

「日本語しゃべろう会」
明治コミュニティセンターで外国人住民の方を中心に毎週開催されている日本語教室。

参加者の声

- ・外国人の防災は、どこの地域においても大きな課題となっている。今日のような取り組みが、他の地域にも広がってほしい。
- ・日本語がよく分からないため、災害時にどうしたらよいか、困っていることをどう伝えたらよいか、分からないことばかり。地域の方と一緒に考えたい。

主催者の声

- ・災害時は、障がいをお持ちの方、高齢者、外国の方、病気の方、乳幼児等、多様な方々が避難してくる。平常時から話し合っ具体的対策を考えていきたい。
- ・災害時には安否確認が地域で最初にすべきこと。普段から習慣化してほしい。